

やなせの人生は、まさに「波瀾万丈」「大器晩成」という言葉が似合うものです。幼い頃の家族との別れ、戦争体験、大切な弟の死、妻との出会い、長い不遇の時代、70歳を越えてからのスポットライト……つらいことも楽しいことも、すべて作品の糧にし、多くの人に笑顔を届けた94年の生涯でした。



九州・小倉の軍隊時代。右がやなせ



1歳誕生日

1949年 昭和24年	1953年 昭和28年	1954年 昭和29年	1957年 昭和32年	1959年 昭和34年	1960年 昭和35年	1961年 昭和36年	1964年 昭和39年	1966年 昭和41年	1967年 昭和42年	1969年 昭和44年
30歳	34歳	35歳	38歳	40歳	41歳	42歳	45歳	47歳	48歳	50歳

2月6日、高知県香美郡香北町在所村（現香美市香北町）で父・柳瀬清、母・登喜子の長男（本名・柳瀬浩）として生まれる。父が赴任先の中国で急逝。父の死後、高知市内で母、母方の祖母と暮らす。弟・千尋は南国市で開業医をする伯父の養子となる。高知市立第三小学校（現高知市立はりまや橋小学校）入学。母親の再婚で、南国市の伯父の家に預けられ、弟といっしょに暮らす。後野田組合立常小中学校（現南国市立後野田小学校）に転校。高知県立城東中学校（現高知県立高知追手前高等学校）入学。東京高等工芸学校工芸園芸科（現千葉大学工学部）入学。東京田辺製薬（宣伝部）入社。招集され、九州・小倉の部隊に入隊。戦終を中国で迎える。復員。中国より帰郷。高知新聞社に入社。社会部記者を経て雑誌『月刊高知』編集室配属。後に妻となる小松暢と出会う。高知新聞社を退職し、上京。三越百貨店（宣伝部）に入社。包装紙「華ひらく」の制作に携わる。仕事の合間に新聞や雑誌へ漫画を投稿。暢と入籍。三越百貨店を退社。漫画家として独立する。ニッポンビル（現サッポロビル）の広告漫画『ビールの王さま』始め、多数の連載漫画を手がける。高知新聞朝刊に連載漫画「マックロちゃん」掲載。高知新聞朝刊に連載漫画「マックロちゃん」掲載。ミュージカル「見上げてごらん夜の星を」（永六輔監修）に美術担当として参加。作曲家のいずみたくと出会う。『手のひらを太陽に』を作詞（いずみたく作曲、宮城まり子歌）。ラジオコンートの脚本や、テレビ番組の構成作家などをする。NHK「まんが学校」に講師として出演（1967年）。詩集「愛する歌」を山梨シルクセンター（現サンリオ）より刊行。雑誌「PHP」に短編を一年間連載。十月号に「アンパンマン」登場。虫プロダクションの長編アニメ映画「千夜一夜物語」（手塚治虫原案、総指揮）で美術監督とキャラクターデザイン担当。

永六輔さんの『見上げてごらん夜の星を』の舞台装置を担当



「ビールの王さま」広告掲載誌面

三越退社後、新宿区荒木町に住む



『月刊高知』1949年5月号

やなせたかしに会える場所

やなせの作品や関連資料などを展示する県内の各施設にも足を運んでみてください。

香美市立やなせたかし記念館

やなせの故郷・香美市香北町にある同館は、やなせ自らコンセプトや設計にアイデアを出し、1996年にオープンした美術館です。複合施設になっており、「アンパンマンミュージアム」ではやなせが特別に描きおろしたアンパンマンのタロウ画やアンパンマンの絵本の原画などを展示。「詩とメルヘン絵本館」では詩や漫画やイラストなど、アンパンマン以外の作品を紹介する企画展が開かれています。子どもから大人まで楽しめる美術館です。

住所 高知県香美市香北町美良布1224-2
電話 0887-59-2300
開館時間 9:30～17:00（最終入館 16:30）
休館日 火曜（祝日の場合はその翌日休館）
※改修工事のため2025（令和7）年3月28日まで全館休館しています。
詳細は公式サイトをご確認ください
<https://anpanman-museum.net>



まんが王国・土佐情報発信拠点 高知まんがBASE

高知の漫画文化や高知出身の漫画家などを紹介している施設。やなせが第1回大会から審査委員長を務めてきた「まんが甲子園」に関するコーナーがあり、過去の大会の映像や、やなせをはじめとする審査員直筆のサイン色紙を展示しています。



住所 高知県高知市丸の内1-1-10
電話 088-855-5390
開館時間 月・水・金曜は12:00～18:00、土・日・祝は10:00～17:00
休館日 火・木曜、年末年始
入館料 無料
駐車場 なし
<https://kochi-mangabase.jp/>



海洋堂スペースファクトリーなんこく

海洋堂のソフィフィギュア工場の見学や、フィギュアの色付け体験などができる施設。2階には南国市のもものづくりや暮らしについて紹介するコーナーがあり、その一角でやなせと後免町の関わりを知ることができます。展示があります。



住所 高知県南国市大そね甲1623-3
電話 088-864-6777
開館時間 10:00～18:00（最終入館17:30）
休館日 火曜（祝日の場合はその翌日休館）、12月28日～1月1日
入館料 無料
駐車場 あり
<https://kaiyodo-sfn.jp/>



※お出かけの際には、各施設の公式ホームページで最新情報をご確認ください。

どっぷり高知旅キャンペーン

やなせたかしのふるさと・高知県。連続テレビ小説「あなぱん」の放送をきっかけに、やなせたかしのゆかりの地・ものべがわエリアを中心に県全域をどっぷり楽しんでもらう情報を発信中です。やなせさんの愛した豊かな自然、食、歴史など本県の魅力を存分に体感ください。



やなせたかし やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV ※記事及び画像の転載はご遠慮願います。

令和6年4月1日～令和10年3月31日
どっぷり高知旅キャンペーン推進委員会
（事務局：高知県観光振興スポーツ部観光政策課）
電話 088-823-9606
サイト <https://doppuri.kochi-tabi.jp/>



高知に生まれ、高知を愛した作家 やなせたかし

2025年前期
連続テレビ小説
「あなぱん」(NHK)
やなせたかしと暢夫妻を
モデルとした物語



やなせたかしの歩み

やなせたかし文化賞のロゴ



「やなせたかし文化賞」は2年に1度、子どものための良心的な芸術活動に対して授与される



「PHP」に掲載された『アンパンマン』は後に「十二の真珠」にまとめられた



2018年 平成30年	2019年 平成31年	2020年 令和2年	2021年 令和3年	2022年 令和4年	2023年 令和5年	2024年 令和6年	2025年 令和7年	2026年 令和8年	2027年 令和9年	2028年 令和10年
94歳	95歳	96歳	97歳	98歳	99歳	100歳	101歳	102歳	103歳	104歳

フレール館の月刊絵本「キンダーおはなしえほん」に初めての幼児向け絵本「やさしいライオン」を発表。雑誌「詩とメルヘン」（サンリオ）創刊。同誌編集長を務める（2003年）。雑誌「いちえほん」（サンリオ）創刊。編集長を務める（1982年）。雑誌「イラストレ」サンリオ刊行。編集長を務める（1985年）。日本テレビ系列でテレビアニメ「いっけい！アンパンマン」放映開始。劇場版映画第一作「いっけい！アンパンマン キラキラ星の涙」公開。以降、シリーズ化され毎年公開。勲四等瑞宝章受章。高知県にて、第一回全国高等学校漫画選手権大会（まんが甲子園）開催。以降、毎年審査委員長を務める。妻・暢死去。高知県香美郡香北町（現香美市香北町）名誉町民の称号を受ける。高知県香美市香北町（現香美市）に町立（現香美市立）「やなせたかし記念館アンパンマンミュージアム」開設。「やなせたかし記念館詩とメルヘン絵本館」開設。「やなせたかし記念館別館」開設。高知県特別奨励功労表彰。土佐くろしお鉄道「ごめん・なはり線」の各駅にキャラクター制作。『フタル爺さん』でCD歌手デビュー。高知県南国市名誉市民の称号を受ける。東京都新宿区名誉区民の称号を受ける。「それいけ！アンパンマン」が単独のアニメーションシリーズの登場キャラクター（176体）でギネス世界記録に認定。朝日小学生新聞に「やなせたかしのメルヘン絵本」を連載開始（2013年）。東日本大震災の発生により、引退を撤回、被災地支援を行う。アンパンマンミュージアム向かいに「たなかうアンパンマン」像完成。高知県名誉市民顕彰を受ける。10月13日、永眠。高知県香美市、やなせと暢夫人の眠る「やなせたかし公園」完成。やなせの遺志を受け継ぎ「やなせたかし文化賞」設立。



1996年7月21日、アンパンマンミュージアムオープン



勲四等瑞宝章受章に際し、赤坂離宮庭園での春の叙勲受章式

やなせたかしと暢

職場で出会ったやなせと暢。やなせに代表作がなかなか生まれなかったときも暢はやなせを側で支え続けました。お互いが唯一無二の存在であった2人のエピソードを少しだけご紹介します。

高知新聞社での出会い

やなせは27歳のときに高知新聞社へ入社し、雑誌の編集部配属されました。そこで後に妻となる小松暢と出会います。

女性が社会に出て男性と同じように仕事をするのが珍しい時代。暢は色白で一見するとか弱そうに見えましたが、学生時代は短距離ランナーとして活躍し、「イダテンおのぶ」の異名ももった体育会系の硬派。さっぱりとした性格で、元気いっぱい暢に、やなせは恋をしたのです。

暢は“はちきん”で優しい人

暢は、芯を持った高知の女性を表す「はちきん」という言葉がぴったりの人でした。ある日、暢が広告料の集金に行ったとき、女だからと甘く見て払ってくれない相手に、暢は自分のハンドバッグを投げつけて「きちんと払いなさいよ!」と唸りをきり、広告料を徴収してきたそうです。強くたくましい暢ですが、利他の心を持った優しい人でもありました。暢の強さと優しさに惹かれたやなせですが、自分に自信がなく愛の告白はできませんでした。しかし、ふとしたはずみで二人は想いが通じ、人生を共にするパートナーとなりました。



暢に背中をおされて上京

新聞社で働きながらも、やなせの心には「デザイナーか漫画家になる夢に、もう一度挑戦したい」という思いがありましたが、不安もあり、一歩を踏み出せずにいました。そんなやなせの背中を押したのは暢でした。暢は、「東京に出て働く」と言って、先に一人で上京したのです。暢の行動力に感化されたやなせは、新聞社を辞めて上京。やなせと暢は、六畳一間の古びたアパートで暮らし始めました。風呂なし、トイレは共同というような貧しい暮らしでしたが、二人は寄り添い、支え合って毎日を楽しんでいました。

いつまでも変わらぬ愛

やなせは上京後、三越百貨店に勤める傍ら、漫画の投稿をしていました。漫画家として独立しようかと悩んでいたやなせに、「大丈夫。何とかなるわ。もしお金がなくなったら、私が働いて食べさせてあげる」と言って背中を押したのも、また暢でした。34歳で独立してから30年以上漫画家としての代表作がなかったやなせを、持ち前のたくましさで支え続けた暢は、「アンパンマン」が大ヒットして間もなくから病を患い、1993(平成5)年に75歳で天国へと旅立ちました。暢の死後、やなせはしばらく無気力になり、食欲をなくして10キロ以上も痩せたといいます。お互いを想い合い、支え合ってきたやなせと暢は、今も二人でやなせの故郷に眠っています。



“七色の作家” やなせたかしの世界

漫画家

幼少期から絵を描くことが好きだったやなせは、高知出身の漫画家・横山隆一に影響を受け、「漫画家」に憧れを抱きました。その思いは時間が経っても変わることなく、上京を決意するきっかけの一つとなりました。やなせは4コマ漫画を中心に描き、ニッポンビール(現サッポロビール)の広告漫画『ビールの王さま』や、高知新聞朝刊に掲載された『マックロちゃん』『ヤンちゃん』など多数の作品を発表しました。また、NHK『まんが学校』への出演や、まんが甲子園の審査委員長、日本漫画家協会の会長に就任するなど、漫画の振興にも尽力しました。

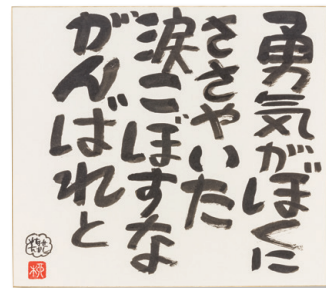


週刊朝日マンガ賞を受賞した『ポオ氏』は、台詞はなく絵だけでウィットに富んだストーリーが展開するサイレント漫画。『パントマイム』漫画と自ら称した、やなせの真骨頂です。

デザイナー

文学が絵の仕事をしたと希望していたやなせ。伯父に「商業美術なら食べていけるだろう」と言われ、東京高等工藝学校・工芸図案科(現千葉大学工学部)へ進学してデザインを学びました。終戦後に就職した三越百貨店宣伝部では、包装紙「華ひらく」(1947(昭和22)年)の制作に携わりました。やなせは英文字のレタリングを担当。モダンなデザインは好評を博し、70年以上経った現在も使われています。

百貨店 三越の包装紙「華ひらく」
(猪熊弦一郎 デザイン/やなせ筆)



エンターテイナー

40代の頃のやなせは、依頼されるままに舞台、テレビ、ラジオなどの仕事をし、その中で、エンターテインメントの仕事のイロハを理解していきました。やなせ自身も、次第に人前で演じることが好きになり、80歳を過ぎてからは老人のアイドル「老いドル」として、歌手デビュー! 自ら演出を手掛け、コンサートも開いていました。



より多くの人を笑顔にしたいと、コンサートでは自らデザインに携わったおしゃれで華やかな衣装を着用していました。

やなせは、絵本や漫画だけでなく、様々な分野で数多くの作品を残しています。幼少期からの様々な経験、そして「人生は喜ばせごっこ」という言葉に込められた、人を喜ばせたいというやなせの思いが七色の才能を開花させたのです。

編集者

終戦後、高知新聞社に就職し、新たに創刊される雑誌「月刊高知」の編集室に配属されたことが、編集者としての第一歩となりました。そこで様々な仕事をこなした経験が、後に自身が編集長を務めることになる雑誌「詩とメルヘン」へとつながります。「詩とメルヘン」は、一般読者が投稿した詩にプロのイラストレーターが絵をつける雑誌で、やなせは詩やイラストの選定をはじめ、表紙絵、4コマ漫画、ルポ記事、小さな挿絵などあらゆる仕事を担当。同誌以外にも、「詩とメルヘン」のジュニア版「いちごえほん」、イラスト専門誌の「イラストレ」の編集長も兼任しました。



「詩とメルヘン」は1973(昭和48)年から2003(平成15)年まで30年間にわたり、357冊が発行されました。

絵本作家

徴兵されて中国にいたときに偶然手にしたエーリッヒ・ケストナーの児童文学書が、子どもから大人まで楽しめる話だったことに影響を受け、やなせは絵本などの子ども向けのものでも「大人と子どもを区別しない」という思いを貫きました。どんなテーマであっても子どもにも伝わりと信じ、時にコミカルに、時に安易な救いはなしに描きました。



『あんぱんまん』
「キンダーおはなしえほん」1973年10月号(フレーベル館)

アンパンマンの生みの親

国民的作品である「アンパンマン」はやなせの実体験がルーツとなっています。幼少期、財布を落として困っていたやなせは、通りかかった同級生の母に助けってもらい、一緒に乗った電車の中でアンパンをもらいました。その時に感じた安堵感とアンパンの味わい、そして戦争を通して知った「正義はある日突然逆転する」という衝撃が、空腹の人をひたむきに助けるアンパンマンを生み出したのです。やなせは、読み物、絵本、漫画、演劇といったさまざまな創作活動を通じて「アンパンマン」という作品を描き続けました。

大切なふるさと・高知

28歳から東京で暮らしたやなせですが、ふるさと・高知を生涯大切に想っていました。高知からのさまざまな依頼を受け、やなせは高知の発展のために積極的に応えており、その息吹は今も高知のあちこちで感じることができます。

まんが甲子園

“高校ベン児”が1枚のまんがで競う「まんが甲子園(正式名称:全国高等学校漫画選手権大会)」は、1992(平成4)年にスタート。県を挙げて漫画文化を推進する高知県などが主催し、これまでに30回以上開催されています。やなせは、第1回大会から審査委員長として参加、全国の高校ベン児が憧れる大会となるように大会をリードし、漫画に情熱を燃やす高校生を応援していました。2011(平成23)年の第20回記念大会の際には、やなせの功績に対し、永世名誉審査委員長の称号が贈られました。没後もやなせの分身のキャラクターである「やなせうさぎ」が毎回健闘した高校ベン児にやなせたかし賞を贈呈しています。



高知ゆかりのキャラクター

高知県がより一層発展していくことを願い、やなせはさまざまなキャラクターを生み出しました。高知県産の健康キャラクター「ハハハ3きょうだい」と「ハハハ大臣」や、「トラフ博士」などの高知県防災キャラクター、土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線の各駅キャラクター、高知の野菜11人きょうだい、香美イメージキャラクターなど、80を超えるキャラクター®があります。それらのキャラクターは現在さまざまなところに登場し、県民の健康増進や文化振興、さらに、地産外商や観光PRの後押しをしています。

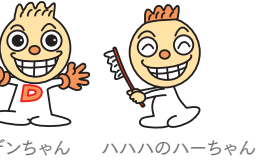
高知県防災キャラクター



ハハハ3きょうだい



ごめん・なはり線キャラクター



※民間の事業所や団体のキャラクターも含む

名誉県民・名誉市民

やなせは、1994(平成6)年に旧香美郡香北町名誉町民、2004(平成16)年に南国市名誉市民、そして、2011(平成23)年に高知県名誉県民として顕彰されています。高知県名誉県民顕彰にあたり、やなせは県民へこんなメッセージを届けました。

(前略)なぜアンパンマンに人気があるのか作者の僕には良くわかりません。しかしこれは山の幸海の幸に恵まれた土佐の国の風土のせいではないかと考えています。土佐はアンパンマンの故郷です。命のある限りは仕事を続けて名誉県民に恥じない作品を残していきたいと考えています。ありがとうございました。

平成23年11月3日
やなせたかし

(高知県名誉県民顕彰 やなせたかし氏 事績概要より)